

# Economic Monitor

## 2ヶ月連続の減少も緩やかな回復基調は維持（2月機械受注）

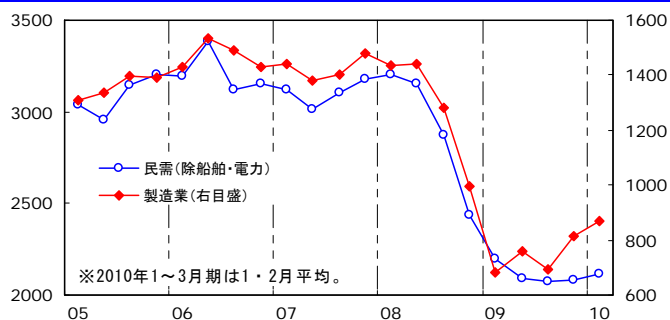
**機械受注は2ヶ月連続減も、製造業主導で回復基調を維持。1～3月期は2四半期連続の増加に。**

2月の機械受注（民需除く船舶・電力）は前月比▲5.4%（1月▲3.7%）と2ヶ月連続で減少した。予想コンセンサスは小幅プラスであり、ネガティブ・サプライズと言える。デフレの悪影響を受けやすい非製造業の低迷継続に加え、12月・1月と急増していた素材関連の反動減が響いた。但し、1・2月平均は前期を1.5%上回っており、3月が前月比1.8%未満の減少であれば、1～3月期平均は前期を上回る。また、3月が4.3%以上の増加となれば、内閣府予想の前期比2%増加も達成するため、機械受注が緩やかな回復基調へ転じつつあるとの見方を修正する必要はない。従って、2009年10～12月期に前期比0.9%と7四半期ぶりの増加に転じた設備投資は、2010年前半も持ち直しの動きを継続すると見込まれる。但し、デフレの悪影響を色濃く受ける非製造業の回復が遅れるため、回復ペースの加速は年後半にずれ込むだろう。

製造業からの受注は、前月比▲0.3%（1月3.3%）と3ヶ月ぶりに小幅減少した。しかし、1・2月平均は前期を6.8%上回り（10～12月期17.8%）、かつ全体のトレンドを左右する加工業種が3ヶ月連続で増加しており、回復基調に変化はない。素材業種は12月前月比41.4%、1月12.7%と急増した反動もあり、2月は▲29.0%と落ち込んだ。鉄鋼（▲54.1%）や化学（▲26.8%）の減少が目立つ。但し、そもそも素材業種からの受注はボラタイルであり、かつ1・2月平均は前期を上回っているため、過度の懸念は不要である。加工業種は前月比0.1%（1月8.0%）と3ヶ月連続で増加した。電気機械（前月比▲10.1%）は減少したが、自動車（7.9%）と一般機械（6.1%）が増勢を維持している。非製造業（除く船舶・電力）からの受注は前月比▲4.0%（1月▲12.9%）と低迷が続いた。全体の3割を占める通信業は11.8%と2ヶ月ぶりに増加したものの、運輸業（▲4.5%）や卸・小売業<sup>1</sup>（▲14.0%）、情報サービス業（▲19.9%）が2ヶ月連続で減少し、全体を押し下げた。非製造業も海外需要を取り込むべく海外展開を進めているが、それは海外への直接投資という形態が中心になるため、国内の設備投資増加にはあまり繋がらない。そのため、デフレ深化の下で、非製造業による設備投資の回復は遅れると考えられる。

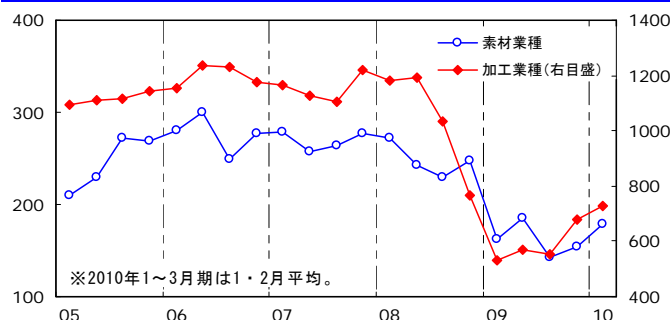
2月の外需は前月比8.4%（1月▲8.8%）と2ヶ月ぶりに増加した。アジアの新興国の需要拡大などを背景に、1～3月期の外需は3四半期連続の増加を記録すると見込まれる。

民需と外需の推移（四半期、10億円）



(出所)内閣府

素材業種と加工業種の推移（四半期、10億円）



(出所)内閣府

<sup>1</sup> 卸・小売業と情報サービス業の季調値は未公表のため、当社独自季節調整に基づく。なお、4月分からは公表される予定。